観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 6 年 7 月 29 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）八幡浜市ふるさと観光公社	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 八幡浜市（愛媛県）	
所在地	愛媛県八幡浜市	
設立時期	２０１８年１２月１４日	
事業年度	４月１日から翌年３月３１日までの１年間	
職員数	３人【常勤３人（正職員２人・出向等１人)】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 木村 謙児 （出身組織名） 道の駅・みなとオアシス八幡浜みなっと　みなと交流館　館長	平成 25 年 4 月に「道の駅・みなとオアシス八幡浜みなっと」が開設されて以来、みなと交流館の館長を務めており、市内外多数のまちづくり団体や観光イベント主催団体と交友を持ち、市の観光施策・地域振興施策等に大きな影響力を有しています。また、八幡浜市ふるさと観光公社の設立時から副会長を務めおり、令和 6 年 5 月に副会長から会長に選任されました。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 大家　正裕「専従」 （出身組織名） 八幡浜市役所から出向	八幡浜市政策推進課で５年間、子育て支援課で 2 年間係長として勤務しており、各種計画の策定にかかわった経歴がある。
着地型観光担当（ＣＭＯ補佐）	（氏名） 二宮　俊雄「専従」 （出身組織名） 東武トップツアーズ（株）	東武トップツアーズ（株）で３８年間勤務。松山、高知、松江などの支店長を歴任され、特に教育旅行の受入に高い能力と経験を有する。これまでの知見を生かしながら、着地型観光の誘致・受入実務を担当する。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 曾我　夏子「専従」 （出身組織名） （株）カワニシ	（株）カワニシで６年間勤務。高い営業能力とコミュニケーション能力を有しており、地域の関係者とも連携した上で、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。

様式１

<table>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td>八幡浜市
・商工観光課（観光地づくり、マーケティング、着地型旅行商品の開発・PR、特産品の開発・販路拡大等）
・政策推進課（観光地づくり、マーケティング、PR 等）
・農林課（農林業体験プログラムの造成等）
・水産港湾課（漁業体験プログラムの造成等）
・生涯学習課（歴史・文化体験プログラムの造成等）等</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td>・市内の旅行・観光関係の団体・企業等（市内周遊着地型旅行商品の開発、販売・PR 等への協力）
…四国ツーリスト㈱、コダテル、八幡浜市観光物産協会、佐田岬広域観光推進協議会等
・他 DMO
…(一社)愛媛県観光物産協会(愛媛 DMO)、(一社)キタ・マネジメント等
・市内交通事業者（アクセス改善）
…宇和島運輸㈱、四国開発フェリー㈱、田中輸送(有)等
・各農林水産団体及び農林水産業者、加工業者等（特産品の開発・販路拡大、体験プログラムの造成）
…八幡浜漁業協同組合、西宇和農業協同組合、NPO 法人みかんの花工房等</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td>【該当する登録要件】①
（概要）理事会役員に、行政、宿泊事業者、交通事業者、体験事業者、農林漁業者やその団体等の長等が就任している。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>地域住民への啓発を目的とした講演会・講習会等を毎年複数回開催している。
令和２年度～令和５年度は以下のとおり実施している。

【令和２年度】
・10/16～23　講習会「体験型修学旅行等受入講習会」（９会場）…95 名参加

【令和３年度】
・9/27～29　講習会「修学旅行受入研修会」（６会場）…73 名参加

【令和４年度】（計４回・100 名参加）
・9/9～11　講習会「修学旅行受入研修会」（６会場）…80 名参加
・12/10　南予体験交流フォーラム 2022（１会場）…20 名参加

【令和５年度】（計７回・149 名参加）
・5/10～12　講習会「修学旅行受入研修会」（５会場）…97 名参加
・10／25　講習会「修学旅行受入研修会」（１会場）…12 名参加
・12／20　受入民家情報交換会（１会場）　…20 名参加</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table><tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr><tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・平成 30 年度より、八幡浜市役所内にツアーデスクを設置し、旅行者に対し観光関連情報を提供している。
・平成 30 年度より、ツアーデスクや「八幡浜市観光物産情報サイト」を通して旅行者に対して観光関連情報を提供している。
・令和元年度より、教育旅行誘致のための営業活動を展開している。</td></tr></table></td></tr>
</table>

様式１

		・平成 30 年度より、「八幡浜市観光物産情報サイト」にて観光及び物産に関する情報提供を継続的に行っている。 ・平成 30 年度及び令和２年度「着地型観光推進体制整備事業」において、「八幡浜ふるさと体験」のパンフレットを作成した。 ・令和２年度より、教育旅行向けプログラム「ふるさと南予感動体験」の HP を開設し、その情報発信に取り組んでいる。 ・令和４年度より、教育旅行ＰＲ動画を作成し、営業活動に使用しているほか、ホームページに掲載した。 ・令和５年度は、SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）のインバウンド向けプロモーションビデオの制作に取り組んだ。
	受入環境の整備	・平成 30 年度より、八幡浜市から業務委託を受け「着地型観光推進体制整備事業」に取り組んでいる。 …「八幡浜ふるさと体験」と銘打った体験プログラム群を企画し、「養殖餌やり＆船釣り体験」等を造成・販売している。 ・平成 30 年度、「養殖餌やり＆船釣り体験」の造成に際し、遊漁船業者としての登録を受け(登録番号：愛媛県知事登録第 4113 号)、現在までに４隻の遊漁船及び６名の遊漁船業務主任者を登録している。 ・令和元年度「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業・南予地域体験型観光コンテンツ造成事業」 …四国運輸局・八幡浜市・伊方町と連携の上実施し、観光資源の掘り起しと磨き上げを行った。その結果、「笠置峠へんろみちハイキング」「佐田岬 E-BIKE ガイドツアー」「日土東里山の田舎料理体験」「雅楽体験・神社体験」の４コンテンツを造成した。（令和４年度で「日土東里山の田舎料理体験」は廃止） ・平成 30 年度より、南予地域の広域連携による教育旅行誘致を目指し、教育旅行パッケージ「ふるさと南予感動体験」を企画するとともに、その基盤整備に取り組んでいる。 ・令和元年度より、八幡浜市・伊方町・佐田岬広域観光推進協議会と連携の上、佐田岬半島を周遊する観光ルートを整備している。具体的には、「E-BIKE」を活用した周遊型体験プログラム等の整備を進めている。 ・令和２年度「佐田岬 E-BIKE 魅力体験ツアー造成業務」 …佐田岬広域観光推進協議会から業務委託を受け、E-BIKE を活用した募集型企画旅行を企画・実施し、２泊３日５名の参加を得た。 ・令和５年度に、旅行業、遊漁船事業者、SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）の更新登録を行った。
	観光資源の磨き上げ	・平成 30 年度より、来訪者満足度に係る自主アンケート調査を継続的に実施し、毎月・毎年集計の上その動向を把握している。

	・令和２年度「観光地域動向調査事業・愛媛県南予地域における欧米豪向け観光資源調査事業」 …四国運輸局・(一社)キタ・マネジメント・(一社)内子観光協会等と連携の上実施し、「神社体験」のモニター調査及び磨き上げのための検討会を行った。 ・令和４年度に、教育旅行の民泊民家・受入組織のスタッフを対象に先進地視察を実施した。(6 地域 14 人が参加) ・令和４年度に、農林水産省「農泊専門家派遣事業」を活用して専門家を招聘し、「柑橘収穫&マーマレードづくり体験」を整備するにあたり具体的な助言をいただいた。

【定量的な評価】

・旅行消費額

平成 27 年　18 億 1,423 万 7,000 円
平成 28 年　18 億 1,778 万 2,000 円（対前年比　100.20%）
平成 29 年　18 億 4,326 万 8,000 円（対前年比　101.40%）
平成 30 年　18 億 3,288 万 5,000 円（対前年比　 99.44%）
令和元年　 20 億 8,645 万 0,000 円（対前年比　113.83%）
令和２年　 14 億 6,540 万 0,000 円（対前年比　 70.23%）
令和３年　 17 億 8,582 万 5,000 円（対前年比　121.87%）
令和４年　 20 億 4,008 万 4,000 円（対前年比　114.24%）
令和５年　 22 億 6,849 万 8,000 円（対前年比　111.20%）
令和６年　 25 億 2,407 万 9,000 円（対前年比　111.30%）

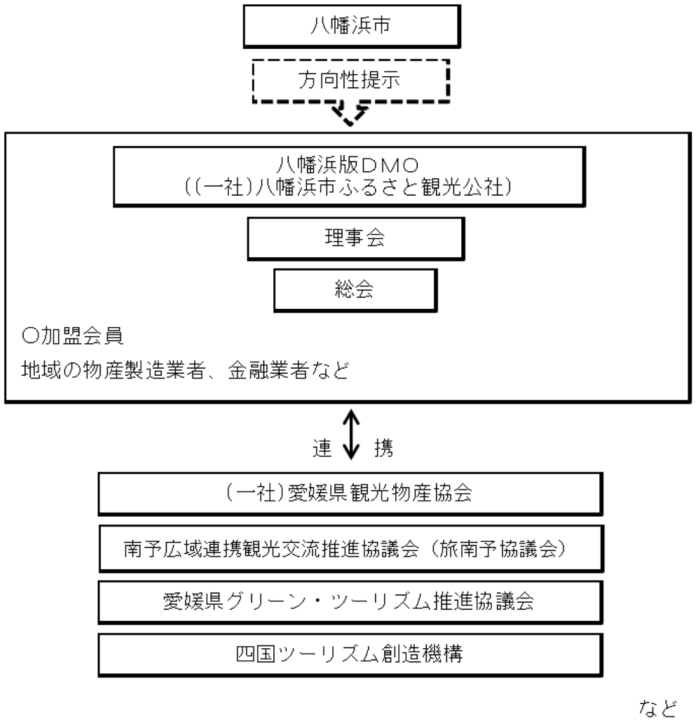
・宿泊客数

平成 27 年　10 万 5,901 人
平成 28 年　８万 7,083 人（対前年比　 82.23%）
平成 29 年　８万 7,680 人（対前年比　100.68%）
平成 30 年　８万 1,922 人（対前年比　 93.43%）
令和元年　 ７万 8,587 人（対前年比　 95.93%）
令和２年　 ７万 5,142 人（対前年比　 95.62%）
令和３年　 ９万 4,974 人（対前年比　126.39%）
令和４年　 ５万 7,594 人（対前年比　 60.64%）
令和５年　 ９万 6,008 人（対前年比　166.70%）
令和６年　 ９万 1,157 人（対前年比　94.90%）

・観光入込客数（総数）

平成 27 年　164 万 4,285 人
平成 28 年　170 万 6,919 人（対前年比　103.81%）
平成 29 年　177 万 8,700 人（対前年比　104.21%）
平成 30 年　176 万 5,137 人（対前年比　 99.24%）
令和元年　 171 万 8,546 人（対前年比　 97.36%）
令和２年　 122 万 0,538 人（対前年比　 71.02%）
令和３年　 134 万 9,277 人（対前年比　110.55%）
令和４年　 145 万 972 人　（対前年比　107.54%）
令和５年　 162 万 8,240 人（対前年比　112.22%）
令和６年　 185 万 3,118 人（対前年比　113.80%）

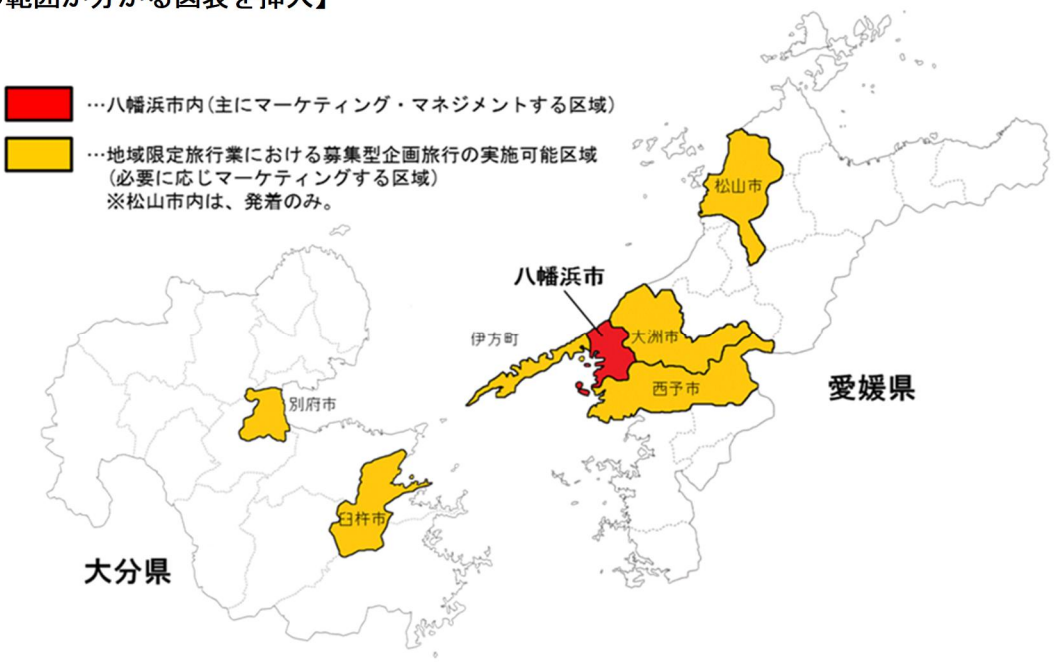
様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** （一社）八幡浜市ふるさと観光公社が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、農林水産業、商工業等、多様な関係者が参画する官民が密接に連携した運営を実施。 **【実施体制図】** 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

※安定的かつ継続的に区域としての一体性を確保する観点から、地域における自然、歴史、文化等の関係性を踏まえて記入すること。

愛媛県西部、佐田岬半島の基部に位置する八幡浜市は、北は伊予灘、西は宇和海に面し、九州とも近いことから、古来より海上交易で栄えてきた。江戸時代は宇和島藩の商港として大坂や長崎との交易で栄え、「伊予の大坂」と称された。明治期には新政府の殖産興業政策を受け、鉱業・海運業・紡績業などの商工業が発達した。

戦後は水産業が飛躍的な発展を遂げ、トロール漁業の基地としてその名を全国に広めた。また、温暖な気候と丘陵地を活かした柑橘果樹の栽培が盛んになり、全国屈指の産地として認められるようになった。さらに近年では、市民のソウルフードである「八幡浜ちゃんぽん」や、国際大会も開催される「マウンテンバイク」や「マーマレード」による地域振興にも力を入れている。

一方で、八幡浜港は九州と四国とを結ぶ連絡港として発展し、隣接する道の駅「八幡浜みなっと」には年間 100 万人を超える利用者が訪れ、愛媛県を代表する観光・交流拠点施設に成長した。

戦後間もない 1954 年には八幡浜市物産協会が、昭和 39(1964)年には八幡浜市観光協会が組織化された。そして平成 27(2015)年には両協会が合併し八幡浜市観光物産協会が誕生し、会員相互の連携のもと、市内の観光と物産の振興を図ってきた。

このような状況下、八幡浜市の観光の課題としては、年間 180 万人を超える観光入込客数がありながら、旅行消費額が低い点が挙げられる。すなわち、愛媛県全体の入込客数一人あたりの消費額が 4,000 円程度あるのに対し、八幡浜市の場合は 1,400 円程度しかない。また、入込客総数に対する宿泊客総数の割合は、県全体では 18%程度あるのに対し、八幡浜市の場合は５～７%程度しかない。

今後は、より市内の観光資源の磨き上げを行い、それらをつなぐ観光ルートを設定・定着させ、観光客の滞在時間を伸ばすことで、観光消費額の底上げを図っていく必要がある。そのような観点から、八幡浜市内を主なマーケティング・マネジメント区域として設定する。

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

八幡浜市の観光入込客数は、平成 25(2013)年にオープンした道の駅みなとオアシス「八幡浜みなっと」によって飛躍的に増加した。オープン前年の平成 24(2012)年に 59.7 万人だった観光入込客数は、平成 25 年 165.6 万人、平成 26 年 156.6 万人、平成 27 年 164.4 万人、平成 28 年 170.6 万人、平成 29 年 177.8 万人、平成 30 年 176.5 万人、令和元年 171.8 万人と高水準で推移している。みなっとオープン後も、平成 26 年、JR 四国の観光列車「伊予灘ものがたり」の運行開始、平成 28 年、「えひめいやしの南予博 2016」の開催、「八幡浜黒湯温泉みなと湯」のオープン、平成 29 年、「愛顔つなぐえひめ国体」の開催、令和元年、「ダルメイン世界マーマレードアワード＆フェスティバル日本大会」の開催など、交流人口の拡大につながる大きな出来事が続いたが、令和２年は新型コロナウイルス感染症の影響で 122.1 万人に、令和３年は 134.9 万人に落ち込んだ。なお、令和４年はウィズコロナの定着により 145 万人、令和５年は 162 万人、令和６年は 185 万人となった。

一方で、宿泊客数は 10 万人を下回る年が多く、観光入込客総数に対する宿泊客総数の割合をみると、愛媛県全体では 18%程度あるのに対し、八幡浜市の場合は５～７%程度しかない。

観光消費額は、道の駅「八幡浜みなっと」オープン後、毎年 18 億円を超え、令和 6 年には 25 億円を超えたが、これを観光入込客数一人あたりに換算すると、1,400 円程度である。愛媛県全体でみると 4,000 円程度になっており、八幡浜市の水準の低さが際立つ。観光消費額は宿泊とも密接な関係があることから、いかに滞在時間を伸ばし、宿泊してもらえるようにしていくかが、大きな課題となっている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

観光施設	八幡浜みなっと、平家谷そうめん流し
商業施設	商店街（黒い商店街など）、八日市、ふれあい市
自然	諏訪崎、平家谷公園、琴平公園、夢永海水浴場、大島海水浴場
文化	明治の町並み、梅之堂三尊仏、四国山霊場、斐光園、金山出石寺
スポーツイベント	八幡浜国際ＭＴＢレース、佐田岬ふるさとウォーク、サイクリング佐田岬、二宮敬作ウォーク、シクロクロスやわたはま
その他イベント	(春)座敷雛、川名津柱松神事、さくら祭り、大元神社の百矢祭、二宮忠八翁飛行記念大会 (夏)五反田柱まつり、てやてやウェーブ、みなと花火大会 (秋)保内秋祭り、みなと祭り、産業まつり (冬)十日えびす、まるごとアート展 (その他)日土小学校見学会、八幡浜郷土企画展
体験	雅楽遊び体験、じゃこ天・かまぼこ製造体験、八幡浜湾おさんぽクルージング、やわたはま町並みウォッチング、保内町町並み散策ガイド

市内に全国的に有名な観光施設等はないため、既存の自然（日本有数の柑橘産地）や文化（四国有数の魚市場、遍路道）といった本市ならではの観光資源の特性を捉えた体験等を提供できるようにして行く。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

旧八幡浜市内に 15 軒、旧保内町内に３軒、合計 18 軒の宿泊施設がある。このうち９軒がホテル、４軒が旅館、５軒が簡易宿所である。収容人員は、ホテル全体で約 500 名、旅館全体で約 70 名、簡易宿所全体で約 110 名、合計 680 名となる。収容人員 100 名を超える宿泊施設は１軒のみ、50～99 名は５軒、49 名以下は 12 軒となっている。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

・JR 予讃線・松山駅から八幡浜駅まで約 50 分（特急利用）
・車で松山空港から八幡浜市街地まで約１時間 20 分（松山自動車道利用）
・フェリーで別府港から八幡浜港まで２時間 50 分（宇和島運輸フェリー）
・フェリーで臼杵港から八幡浜港まで２時間 20 分（宇和島運輸フェリー・九四オレンジフェリー）

域内交通
・JR 予讃線：千丈駅～八幡浜駅～双岩駅
・路線バス：
（伊予鉄南予バス）川之内～八幡浜港、八幡浜魚市場前～鼓尾、三島神社前～雨井西町
（宇和島バス）川之内～八幡浜港、谷～穴井、八幡浜営業所～小長早
・田中輸送（離島航路の定期船）：八幡浜港～大島港（片道 22 分）
・市営駐車場：５箇所（料金 30 分まで毎に 60 円）

【外国人観光客への対応】
観光パンフレットの多言語化（英語、韓国語、中国語）を行っているほか、台湾での物産展の開催により観光誘致にも積極的に取り組んでいる。
また、インバウンドの受入推進を目指し、令和元年度には四国運輸局・八幡浜市・伊方町と連携の上、「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業・南予地域体験型観光コンテンツ造成事業」を実施し、新たな観光コンテンツの掘り起しと磨き上げを行っている。具体的には、「笠置峠へんろみちハイキング」「佐田岬 E-BIKE ガイドツアー」「日土東里山の田舎料理体験」「雅楽体験・神社体験」の４コンテンツを造成した。
さらに、令和元年 12 月６日には、農林水産省により「SAVOR JAPAN」（農泊 食文化海外発信地域）の実行組織として認定されたことから、特に「食」と「食文化」によるインバウンド誘致に関わる支援を受けられることとなった。令和 5 年度には、「SAVOR JAPAN」の事業により、インバウンド向けの PR 動画を制作した。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	八幡浜市調査「観光客数とその消費額」によるほか、アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	八幡浜市調査「観光客数とその消費額」を活用して実施。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google アナリティクス等のアクセス解析ツールを活用して実施。
観光入込客数	交流人口、関係人口を含めた動向を分析するため。	八幡浜市調査「観光客数とその消費額」を活用して実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

八幡浜市では、他の例にもれず人口減少が進んでおり、一次産業の担い手の高齢化や後継者不足などによる地域力の低下が懸念されている。そのような中、自然や歴史・文化・食・生業等を活かした

着地型観光の基盤整備と地域密着の旅行業に取り組むことにより、八幡浜市内での滞在時間と観光消費の底上げを図り、これにより交流人口を拡大し、ひいては移住・定住を促進し、観光地域づくりの実現を目指している。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・四国と九州とをつなぐフェリー航路を持つ。 ・日本屈指のみかん産地で、みかん生産高は県内一。 ・四国有数の水揚げを誇る魚市場を持つ。 ・国際的なマウンテンバイク大会やマーマレード大会を開催している。 ・レンタサイクル環境が充実している。 ・八幡浜ちゃんぽんがソウルフードとして根づいている。 ・豊かな自然（海、山）に囲まれている。	弱み（Weaknesses） ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ ・宿泊まで至る観光客が圧倒的に少ない。 ・魅力のある宿泊施設が少ない。 ・観光拠点となる港と駅とのアクセスが悪い。 ・国内外における認知度が低い。 ・A級の観光資源がない。 ・多くの観光資源が未開発。 ・若者に受ける観光資源が少ない。 ・外国人観光客の受入体制が不十分。 ・情報発信力が弱い。
外部環境	機会（Opportunity） ・自地域にとって追い風となる要素は何か？ ・高齢者の増加 ・情報化社会の進展 ・観光ニーズの多様化 ・国際観光需要(インバウンド)の増加 ・国の観光施策の強化 ・四国遍路の日本遺産登録	脅威（Threat） ・自地域にとって逆風となる要素は何か？ ・人口減少・高齢化 ・地域間競争の激化 ・国内観光消費額の伸び悩み

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。

体験・交流型観光を嗜好・希求する、国内都市部の若年層及び修学旅行生

〇選定の理由
※４．戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。

日本国内の都市部では、住民同士のふれ合いや地域とのつながりが希薄なことから、普段の暮らしでは味わえない地域住民とのふれ合いを通して、地域の自然や文化・食・生業などにふれる機会が求められている。特に関東・関西の大都市圏の若年層のニーズが高いものと考えられる。
（参考）民泊を伴う修学旅行の受入件数
令和４年度　　２校　　２９１人
令和５年度　　５校　　５９２人

令和６年度　１０校 ２,２９２人（関西、関東）
令和７年度　　９校 ２,０２３人（関西、関東）

また、中高生の教育旅行市場も、物見遊山的なものから体験・交流型へシフトしつつあることから、その層も含めた「体験・交流型観光を嗜好・希求する、国内都市部の若年層及び修学旅行生」を第１のターゲットとして設定する。
このことにより、他地域とはちがう八幡浜市の魅力を味わってもらい、国内外から持続的に観光客を誘致できる状況を今後確立していく。

〇取組方針
八幡浜市の特色を最大限に活かし、自然や歴史・文化・食・生業に関連した体験・交流型旅行商品を造成するとともに、既存商品をブラッシュアップする。それを Web 等の様々なツールを活用し情報発信するとともに、旅行会社向けのプロモーションに取り組む。
また、来訪者満足度調査の実施等により、再来訪および来訪者拡大につながる要因を分析し、その結果に基づきさらにコンテンツを磨き上げ、八幡浜市ならではの体験・交流型観光を確立する。

〇ターゲット層
地域の農林水産物を活かした「食」を希求する、国内シニア層

〇選定の理由
特に時間的余裕があり、観光地めぐりを趣味とする国内シニア層は、新たな旅行先を常に探していることから、日本屈指の柑橘産地であり、四国有数の水揚げを誇る魚市場を有する八幡浜は、今後アピール次第で大きなターゲットになってくるものと考えられる。そのため、「地域の農林水産物を活かした食を希求する、国内シニア層」を第２のターゲットとして設定する。
具体的には、日帰りの松山からの観光客に加え、大分や高知・高松等からのマイカー利用者が第一のターゲットとして想定できるが、第１ターゲット層向けコンテンツとの連携により、関東・関西の大都市圏の観光客も徐々に取り込んでいきたい。
（参考）
■愛媛県で作られている「温州みかん」の半分以上は八幡浜市で生産されている。
愛媛県生産額（令和３年度）　１位　八幡浜市　１０６億円（県全体の 50.8%）
■四国有数の水揚げを誇る魚市場
水産物流通調査（漁業情報サービスセンター2022 年年間調査より）
産地上場水揚量　八幡浜市 5,905t（四国２位）
■八幡浜市の観光客アンケート調査結果（令和 6 年 1 月～12 月　回答数 172 件）
八幡浜市内で一番の楽しみは何でしたか　⇒１位 おいしいもの 26.2%
どのような交通機関を利用しましたか　　⇒１位 自家用車 44.2%
このことにより、観光客の満足度向上および国内外から持続的に観光客を誘致できる状況を今後確立していく。

〇取組方針
特産品を活かした八幡浜市ならではの「食」を提供する飲食業者等と連携し、Web 等の様々なツールを活用しその情報発信をするとともに、旅行会社向けのプロモーションやモニターツアー等に取り組む。
また、来訪者満足度調査の実施等により、再来訪および来訪者拡大につながる要因を分析し、八幡浜市ならでは「食」を提供する体制を整備する。

〇ターゲット層
サイクリング観光を嗜好・希求する、国内及び台湾のサイクリスト

〇選定の理由
愛媛県はサイクリング観光に力を入れており、県内外から多くのサイクリストが「しまなみ海道」等の優良なサイクリングコースを訪れている。また、愛媛県を訪れる外国人観光客で一番多い台湾は

サイクルツーリズムの先進地であることから、「サイクリング観光を嗜好・希求する、国内及び台湾のサイクリスト」を第３のターゲットとして設定する。この層は、基本的にサイクリングすること自体が目的となるため、第１ターゲット層向けコンテンツとの親和性が特に高いものと考えられる。
八幡浜市は国際的なマウンテンバイク大会やサイクリング大会を開催している上、レンタサイクル環境が充実している。その地の利を活かして、他地域にないサイクリング観光を提供することにより、広く国内外から持続的に観光客を誘致できる状況を今後確立していく。

（参考）

●八幡浜市が毎年開催しているサイクリングイベント等
- ・クップドゥジャポン MTB やわたはま国際 MTB レース（国際レース）
- ・サイクリング佐田岬
- ・域内でのレンタサイクル（Ｅ－ＢＩＫＥ他）の実施　４箇所

●愛媛県を訪れる外国人観光客について
- ・2019 年の宿泊旅行統計調査（観光庁）※コロナ前
  愛媛県の外国人観光客数（年間）　203,890 人　うち１位　台湾 59,620 人
- ・愛媛県を訪れるインバウンド客の消費動向（2024.2.13 日本銀行松山支店）
  愛媛県における外国人宿泊客の国・地域別構成比（2023.7～9）⇒１位　台湾 28.3%

●台湾はサイクルツーリズムの先進地
- ・台湾では、世界最大のスポーツ自転車メーカー、ジャイアントの創業者 劉 金標氏の肝いりで台湾一周を始めとするサイクルツーリズムが推進されています。
- ・年間の台湾一周者数はのべ 3 万人にものぼると言われ、アジアでトップのサイクルツーリズム先進地となっています。

〇取組方針

八幡浜市の多様な自然や歴史・文化・食・生業等を満喫できるサイクリング観光の魅力を、Web 等の様々なツールを活用して情報発信するとともに、モニターツアーの実施等によりコンテンツを磨き上げる。

また、関係機関等と連携して、サイクリング観光に係る環境整備(サイクリングロードの開発・整備、周辺観光の充実)等に努める。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	※他地域と明確に区別できる特徴・価値等を来訪者に伝える表現を簡潔に設定すること。 八幡浜市型“ふるさと観光モデル”の確立
②コンセプトの考え方	※地域が目指すべき姿を明確にし、そのために地域ならではの産業、伝統、食、住、風習等やそこから導き出される区域の特徴（強み、価値）を、①コンセプトにどのように反映させているかについて他地域との差別化も踏まえて記入すること。 ※（１）～（３）のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。 八幡浜市は、海・山・川の豊かな自然に囲まれ、柑橘や魚介類、その加工品、さらにちゃんぽん等特産品にも恵まれている。そこで、自然や歴史・文化・食・生業等を活かした着地型観光の基盤整備と地域密着の旅行業に取り組むことにより、八幡浜市内での滞在時間と観光消費の底上げを図り、これ

	により交流人口を拡大し、ひいては移住・定住を促進し、“ふるさと”八幡浜市全体の活性化に寄与することを目指す。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	※戦略の共有方法について記入すること ・地域住民への啓発を目的とした講習会・講習会 ・八幡浜市商工観光課及び八幡浜市観光物産協会との情報共有
	・地域住民への啓発を目的とした講習会・講習会等を毎年複数回開催している。 ・八幡浜市商工観光課の担当者及び八幡浜市観光物産協会の実務者とは、少なくとも月に１回は打合せを実施の上、アンケート調査の報告と戦略の共有を図っている。 ・事業報告書については、八幡浜市商工観光課にその内容を報告するとともに、各 KPI について市の戦略との整合性が取れていることを確認している。 ・また、上記の戦略に基づき、平成 30 年度以降、八幡浜市から「着地型観光推進体制整備事業」の委託を受けている。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	・来訪者満足度に係る自主アンケート調査を継続的に実施し、毎月・毎年集計の上その動向を把握し、八幡浜市商工観光課と共有するとともに、理事会・総会でもその情報共有を図っている。 ・令和４年度は教育旅行の民泊民家・受入組織のスタッフを対象に先進地視察を実施した。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	・平成 30 年度より、「八幡浜市観光物産情報サイト」及びその SNS を利用して、観光及び物産に関する一元的な情報発信を行っている。 ・令和 2 年度より、教育旅行向けプログラム「ふるさと南予感動体験」の HP を開設し、その情報発信に取り組んでいる。 ・教育旅行ＰＲ動画を作成し、ホームページに掲載している。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	2,086	2,105	2,125	2,292	2,307	2,322
		(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)
	実績	2,040	2,267	2,524			
		(−)	(−)	(−)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	85.93	85.93	86.43	100	100	100
		(0.085)	(2.59)	(2.61)	(2.63)	(2.63)	(2.63)
	実績	57.59	96.00	91.16			
		(0.108)	(0.439)	(0.918)			
●来訪者満足度（%）	目標	82.8	85.2	85.6	86.3	86.3	86.3
		(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)
	実績	84.8	83.5	90.7			
		(−)	(−)	(−)			
●リピーター率（%）	目標	60	65	65.5	66	66	66
		(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)
	実績	64.5	62.9	63.4			
		(−)	(−)	(−)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

・・・

●来訪者満足度
令和４年～令和６年の実績の３か年平均した数値を目標として設定している。
※満足度について過去５年間８０%台で推移していたが、令和６年の実績が９０%以上となったことを考慮した。

・・・

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	13,413（千円）	【公物管理受託】7,092（千円） 【収益事業】6,227（千円） 【会費】26（千円） 【その他】68（千円）
2023（Ｒ５）年度	20,875（千円）	【公物管理受託】5,651（千円） 【収益事業】15,114（千円） 【会費】20（千円） 【その他】90（千円）
2024（Ｒ６）年度	57,151（千円）	【公物管理受託】7,687（千円） 【収益事業】49,444（千円） 【会費】20（千円）
2025（Ｒ７）年度	53,000（千円）	【公物管理受託】7,600（千円） 【収益事業】45,370（千円） 【会費】30（千円）
2026（Ｒ８）年度	53,500（千円）	【公物管理受託】7,550（千円） 【収益事業】45,920（千円） 【会費】30（千円）
2027（Ｒ９）年度	53,500（千円）	【公物管理受託】7,550（千円） 【収益事業】45,920（千円） 【会費】30（千円）

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	14,351（千円）	【一般管理費】17（千円） 【情報発信・プロモーション】625（千円） 【マーケティング】180（千円） 【受入環境整備等の着地整備】5,164（千円） 【観光イベントの開催費】8,365（千円）
2023（Ｒ５）年度	20,445（千円）	【一般管理費】78（千円） 【情報発信・プロモーション】1,342（千円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】108（千円） 【受入環境整備等の着地整備】2,159（千円） 【観光イベントの開催費】16,758（千円）
2024（Ｒ６）年度	58,151（千円）	【一般管理費】100（千円） 【情報発信・プロモーション】1,000（千円）

		【マーケティング】36（千円） 【受入環境整備等の着地整備】7,687（千円） 【観光イベントの開催費】49,328（千円）
2025（Ｒ７） 年度	53,000（千円）	【一般管理費】100（千円） 【情報発信・プロモーション】1,000（千円） 【マーケティング】36（千円） 【受入環境整備等の着地整備】7,600（千円） 【観光イベントの開催費】44,264（千円）
2026（Ｒ８） 年度	53,500（千円）	【一般管理費】100（千円） 【情報発信・プロモーション】1,000（千円） 【マーケティング】36（千円） 【受入環境整備等の着地整備】7,550（千円） 【観光イベントの開催費】44,814（千円）
2026（Ｒ９） 年度	53,500（千円）	【一般管理費】100（千円） 【情報発信・プロモーション】1,000（千円） 【マーケティング】36（千円） 【受入環境整備等の着地整備】7,550（千円） 【観光イベントの開催費】44,814（千円）

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載

・八幡浜市等からの受託事業による基盤の確立
・着地型旅行商品の造成・販売等の実施

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。

八幡浜市は、一般社団法人八幡浜市ふるさと観光公社を本市における「地域ＤＭＯ」として登録したいので、一般社団法人八幡浜市ふるさと観光公社とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

重複するＤＭＯはない。

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	大家　正裕
担当部署名（役職）	CMO
郵便番号	796-8501
所在地	愛媛県八幡浜市北浜一丁目１番１号
電話番号（直通）	0894-22-0855
ＦＡＸ番号	0894-22-5653
Ｅ－ｍａｉｌ	dmo@city.yawatahama.ehime.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	八幡浜市
担当者氏名	太田　真司
担当部署名（役職）	商工観光課（課長補佐）
郵便番号	796-8501
所在地	愛媛県八幡浜市北浜一丁目１番１号
電話番号（直通）	0894-22-3101
ＦＡＸ番号	0894-24-6180
Ｅ－ｍａｉｌ	oota-sinji@city.yawatahama.ehime.jp

（登録）【登録区分】地域DMO（一社）八幡浜市ふるさと観光公社）

様式２

記入日：令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
愛媛県八幡浜市
【設立時期】 2018年12月14日
【設立経緯】
市内に着地型観光に取り組む団体がなかったため、DMO新設
【代表者】 会長　木村 謙児
【マーケティング責任者（CMO）】 大家　正裕
【財務責任者（CFO）】 曾我　夏子
【職員数】 3人（常勤3人（正職員2人・出向等1人））
【主な収入】
収益事業　49,444千円、委託事業　7,687千円（令和6年度決算）
【総支出】
事業費　　58,517千円、一般管理費104千円（令和6年度決算）
（事業費には人件費8,513千円を含む）
【連携する主な事業者】
市内の旅行・観光関係の団体・企業等、水産団体、農林水産業者、加工業者等

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R8）年	2027（R9）年
旅行消費額（百万円）	目標	2,086（—）	2,105（—）	2,125（—）	2,292（—）	2,307（—）	2,322（—）
	実績	2,040（—）	2,267（—）	2,524（—）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	85.93（0.085）	85.93（2.59）	86.43（2.61）	100（2.63）	100（2.63）	100（2.63）
	実績	57.59（0.108）	96.00（0.439）	91.16（0.918）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	82.8（—）	85.2（—）	85.6（—）	86.3（—）	86.3（—）	86.3（—）
	実績	84.8（—）	83.5（—）	90.7（—）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	60（—）	65（—）	65.5（—）	66（—）	66（—）	66（—）
	実績	64.5（—）	62.9（—）	63.4（—）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
体験・交流型観光を嗜好・希求する国内都市部の若年層及び修学旅行生

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
地域の特色を最大限に活かし八幡浜市ならではの体験・交流型観光を確立し、修学旅行の誘致を行う。

【観光地域づくりのコンセプト】
八幡浜市型“ふるさと観光モデル”の確立

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
平成30年度より、八幡浜市から業務委託を受け、「着地型観光推進体制整備事業」に取り組んでいる。

【受入環境整備】
南予9市町の広域連携により、教育旅行向けプログラム「ふるさと南予感動体験」の販売を開始(R1年12月～)

【情報発信・プロモーション】
八幡浜市役所内にツアーデスクを設置し、旅行者に対し観光関連情報を提供している。

【その他】
令和3年度より、民泊による修学旅行の受入実績ができた。